

# 温 泉 分 析 書

I 申請者住所 別府市上野口1番15号  
 氏名 別府市長 中村 太郎

II 源泉名 地蔵泉  
 湧出地 別府市大字鶴見字明礬1288

III 湧出地における調査及び試験成績  
 1. 調査及び試験者 久枝 和生 小野 文生  
 2. 調査及び試験年月日 平成 5 年 6 月 7 日  
 3. 泉 温 62.7℃ (気温 22.6℃)  
 4. 湧 出 量 9.5 l/min(自然湧出掘削 m)  
 5. 知覚試験 乳白色、弱白濁、収れん味、硫化水素臭  
 6. pH 値 2.9  
 7. ラドン (Rn) 測定せず

IV 試験室における試験成績  
 1. 試 験 者 久枝 和生 小野 文生  
 2. 試験終了年月日 平成 5 年 7 月 19 日  
 3. 知覚試験 弱乳白色、弱白濁、弱収れん味、  
 弱硫化水素臭 (21時間後)  
 4. 密 度 0.9985 g/cm<sup>3</sup> (20℃)  
 5. pH 値 2.85  
 6. 蒸発残留物 0.2672 g/kg (110℃)

3. 遊離成分		
非 解 離 成 分	ミリグラム(mg)	
メタ亜ヒ酸	HAsO <sub>2</sub>	0.0
メタホウ酸	HBO <sub>2</sub>	5.9
メタケイ酸	H <sub>2</sub> SiO <sub>3</sub>	58.8
硫酸	H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub>	0.0
リン酸	H <sub>3</sub> PO <sub>4</sub>	0.0
計		64.7
溶存物質合計		0.288 g

V 試料1kg中の成分 分量及び組成

1. 陽イオン(カチオン)表				
成 分		ミリグラム(mg)	ミリハール(mval)	ミリハール%
水素イオン	H <sup>+</sup>	1.3	1.27	39.44
ナトリウムイオン	Na <sup>+</sup>	13.5	0.59	18.32
カリウムイオン	K <sup>+</sup>	5.2	0.13	4.04
マグネシウムイオン	Mg <sup>2+</sup>	4.8	0.39	12.11
カルシウムイオン	Ca <sup>2+</sup>	10.7	0.53	16.46
鉄(II)イオン	Fe <sup>2+</sup>	0.6	0.02	0.62
アルミニウムイオン	Al <sup>3+</sup>	2.6	0.29	9.01
計		38.7	3.23	100.0

2. 陰イオン(アニオン)表				
成 分		ミリグラム(mg)	ミリハール(mval)	ミリハール%
塩化物イオン	Cl <sup>-</sup>	3.1	0.09	2.37
硫酸水素イオン	HSO <sub>4</sub> <sup>-</sup>	7.5	0.08	2.11
硫酸イオン	SO <sub>4</sub> <sup>2-</sup>	174.3	3.63	95.53
リン酸二水素イオン	H <sub>2</sub> PO <sub>4</sub> <sup>-</sup>	0.4	0.00	0.00
計		185.3	3.80	100.0

溶存ガス成分			ミリグラム(mg)
遊離炭酸	CO <sub>2</sub>	130.5	
遊離硫化水素	H <sub>2</sub> S	3.2	
計		133.7	
成分総計		0.422 g	

VI 泉 質 単純酸性・硫黄温泉  
 旧 称 単純酸性・硫黄温泉 (酸性低張性高温泉)

VII 適応症及び禁忌症 別表による

4. その他,微量成分(飲用に係る成分)		
成 分	ミリグラム(mg)	
総ヒ素	Asとして	0.003未満
総水銀	Hgとして	0.0010
鉛イオン	Pb <sup>2+</sup>	0.01未満
銅イオン	Cu <sup>2+</sup>	0.001未満
フッ化物イオン	F <sup>-</sup>	0.02未満

平成 5 年 7 月 26 日  
 大分県大分市大字曲芳河原団地

大分県衛生環境研究センター 所長

大友 信也



# 温 泉 分 析 書 別 表

I 源 泉 名 地蔵泉	III 温泉分析申請者 別府市長 中村 太郎
II 泉 質 単純酸性・硫黄温泉	IV 掲 示 用 泉 質 硫黄泉
V 適応症及び禁忌症 温泉の医治効用は、その温度その他の物理的因子、化学的成分、温泉地の地勢、気候、利用者の生活状態の変化、その他諸般の総合作用に対する生体反応によるもので、温泉の成分のみによって温泉の効用を確定することは困難であるが、温泉の禁忌症及び療養泉の適応症は、おおむね次のとおりである。	
浴 用 の 適 応 症	神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え症、病後回復期、疲労回復健康増進、慢性皮膚病、慢性婦人病、きりきず、やけど、糖尿病
浴 用 の 禁 忌 症	急性疾患（特に熱のある場合）、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、皮膚、粘膜の過敏な人特に光線過敏症の人、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中（特に初期と末期）
飲 用 の 適 応 症	糖尿病、痛風、便秘、慢性消化器病
飲 用 の 禁 忌 症	下痢の時
浴 用 上 の 注 意 事 項	<p>入浴中は安静にし、入浴後は休息をとる。</p> <p>熱い温泉に急に入るとめまい等を起こすことがあるので十分注意すること。</p> <p>入浴時間は、はじめ3～10分が良い。</p> <p>最初の数日間は、入浴回数を1日1回とし、その後は1日2～3回までとする。</p> <p>入浴をはじめて3～7日後に「湯あたり」が現れることがある、その時は1～2日休浴して再び入浴しつづける。</p> <p>温泉治療に必要な期間は2～3週間である。</p> <p>原則として、次の疾患の者は高温浴（42℃以上）は禁忌とする。 高度の動脈硬化症 高血圧症 心臓病</p> <p>入浴後は、身体に付着した温泉の成分を水で洗い流さないこと（湯ただれを起こしやすい人は入浴後真水で身体を洗うか、拭きとる）。</p> <p>食事の直前、直後の入浴は避けることが望ましい。</p> <p>飲酒しての入浴は特に注意すること。</p>
飲 用 上 の 注 意 事 項	<p>飲泉療養に際しては、温泉について専門的知識を有する医師の指導を受けることが望ましい。</p> <p>温泉湧出口の新鮮なものを飲用すること。</p> <p>食前30分～1時間又は空腹時に飲用すること。（夕食後から就寝前の飲用はなるべく避ける）</p> <p>温泉飲用の1回量は、一般に100～200cc程度とし、その1日量はおおむね200～1000ccまでが適当です。</p> <p>含鉄泉、放射能泉及びヒ素又はヨウ素を含有する温泉は食後飲用する。含鉄泉飲用の直後には、茶、コーヒーなどを飲まないこと。</p> <p>強塩泉、酸性泉、含アルミニウム泉及び含鉄泉はその泉質と濃度によって減量し、又は希釈して飲用すること。</p> <p style="margin-top: 20px;">注）飲用許可を受けなければ飲用できません。必ず飲用許可を受けてから飲用してください。</p>